

2020 岐阜ブロック大会レスキュープレゼンについて

チームプレゼン

- ・ 発表順は競技順とする。
- ・ チームプレゼン時間は3分。
- ・ ポスターの提出が義務付けられます。大会当日にご持参ください。
- ・ ポスターの大きさはA3サイズ1枚又はA4サイズ2枚で作成する。
- ・ チームプレゼンでポスターを使って行うので貼り出すポスターと別に用意する。
(ポスターは貼り出し用とチームプレゼン時の審査員用と選手プレゼン用の3枚必要とする)
- ・ チーム全員でロボットを持って参加すること。
- ・ 審査員1名の持ち点は最大25点とする。
- ・ 審査員2名の持ち点を平均値し4倍(満点40点)したものをプレゼン得点として、競技点に加算する。

評価の基本方針

ロボットの設計と構造

- ・ 設計と構造は主に生徒の独自のものであるか(独自の設計で自作したものは評価が高い、注意:著しいメンターの関与は減点となる。)
- ・ ギア、リンク装置、旋回心軸、モーター(その他基本的でない特徴)が設計と駆動メカニズムに使われている(複雑な設計が装置としての機能を向上している場合は得点を与えられる。各装置の配置をどのように設計したか?など。)
- ・ 電子基板が設計の中に組み込まれ、実際にロボットの上で使用されている(ロボット上にどんな種類のボードがあるか?それぞれのボードの機能は何か?など)
- ・ 自作であることの証明(各チームには、製作過程の各段階の写真を掲載したロボットの概要をA4サイズ用紙にまとめて持参することを奨励する。試したけれどもうまくいかなくてあきらめたアイデアや、生徒たちの設計や元々のアイデアの進化の過程伝えるために、ログブック、日誌、記録写真などの書類が必要となる。)

プログラミングと準備

- ・ 自分たちのプログラミングを説明、記述できる、完全に掌握できている(例:プログラムのこの部分はロボットが何をするためのものなのか?もし、この一つの部分をXに置き換えると、ロボットにどんな影響があるか?)
- ・ 年齢や技術レベルに適した複雑、独創的、またはオリジナリティーのあるプログラミングが使われている
- ・ 被災者を発見、救助するプログラムを説明できる・チームとして作業を分担し、協力した

センサーとテクノロジー

- ・ センサーの使用(例:どのようなタイプのセンサーがロボットに搭載されているか?それらはどのように機能するか?ロボットはどのように方向を判断するか?センサーに対応するプログラミング、センサーを使用するにあたり問題があったか?など。)
- ・ 被災者を発見あるいは救助するための機構を持っている(例:被災者をどのように発見するか?被災者をどのように避難場所に運ぶか?など。)
- ・ その他のテクノロジーの使用(例:自作のサーボモーターまたはセンサーの組立と制御、などの特殊技術の使用。)